



Factors that affect clinical nursing competence and continuing education for Japanese mid-career generalist nurses

Sasatani, Takako

(Degree)

博士 (保健学)

(Date of Degree)

2015-03-25

(Date of Publication)

2016-03-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第6302号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1006302>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



(様式3)

論文内容の要旨

専攻領域 看護学領域

専攻分野 実践看護学専攻

氏名 笹谷 幸子

論文題目(外国語の場合は、その和訳を()を付して併記すること。)

Factors that affect clinical nursing competence and continuing education for Japanese mid-career generalist nurses
(中堅ジェネラリスト・ナースの看護実践能力および継続教育に影響する要因の検討)

論文内容の要旨(1,000字~2,000字でまとめること。)

【目的】本研究は、医療機関における継続教育支援体制の実態を把握し、中堅ジェネラリスト・ナースの看護実践能力と看護実践能力に影響する環境要因、個人要因、専門性要因との関連を明らかにし、継続教育について検討することを目的とする。

【方法】A県内看護管理者と経験年数を5~20年程度有する中堅ジェネラリスト・ナースに対して、看護実践能力に影響すると考えられる要因、およびキャリア中期看護師の臨床実践力測定尺度から成る質問紙調査を実施した。352医療機関に研究協力を依頼し、回答が得られた看護管理者109名(調査1;回収率31.0%)と中堅ジェネラリスト・ナースの有効回答632名(調査2;回収率47.9%)を分析対象とした。

【結果および考察】中堅ジェネラリスト・ナースの看護実践能力総得点は平均73.1±11.1点で、先行研究で67点以上の得点があるものを中堅とされていることから、研究対象者は概ね中堅に該当すると言える。看護実践能力との関連を各項目について検討した結果、看護実践能力と組織要因は、調査1と調査2を合わせ28項目のうち16項目に関連がみられた。個人要因は、経験年数に弱い相関がみられ、13項目のうち10項目に関連がみられた。看護実践能力と専門性要因は、14項目のうち13項目に関連がみられた。以上の結果より、中堅ジェネラリスト・ナースの看護実践能力は、個人要因や組織要因より、専門性要因により影響を受けると推察された。そして、中堅ジェネラリスト・ナースが継続教育に取り組むことで、看護実践能力を高められることが示唆さ

れた。そのため、今後の中堅ジェネラリスト・ナースの継続教育について、検討すべき課題は2つあると考える。1つ目は、「院内研修に全く参加していない」、「看護研究に取り組んだことがない」、「院外の学会や研修に全く参加したことがない」、「専門書をほとんど読んでいない」などの要因を持つ、看護実践能力得点の低い群に対し、その能力を高めるための取り組みをしていくことである。2つ目は、看護師の発達過程においては、キャリア発達への動機づけがなければ、自己啓発意欲が下がり、中堅看護師の看護実践能力の発達過程においてプラトー現象を起こす傾向があることから、伸び悩んでいる中堅ジェネラリスト・ナースの看護実践能力を高めるための取り組みをしていくことである。これらの課題への対策として、看護部組織には、目標管理システム、クリニカルラダーシステム、キャリアポートフォリオの3つの人材育成システムを導入し、これらを連動させながら活用を推進していくことが期待される。一方、中堅ジェネラリスト・ナース自身にも専門職として看護実践能力を高めていく自覚を持ち、これらの人材育成システムの有効性についての理解を深め、活用していく姿勢が求められる。看護職が継続教育により、その能力を維持・向上することは、個々のキャリア形成と、看護職としての社会的責務を果たす上で必要不可欠なものである。そのため、看護管理者には組織内外のリソースを活用し、継続教育に取り組める環境を整え、支援していくことが求められる。今後は、研修単位認定制度などを視野に入れながら、継続教育を日本看護協会だけに委ねるのではなく、医療機関同士や医療機関と大学が連携を持つなど、継続教育の地域におけるネットワーク化を図り、中堅ジェネラリスト・ナースの継続教育の体系化を推進していくことが課題である。

指導教員氏名：松田 宣子 教授

論文審査の結果の要旨

氏名	笹谷 孝子		
論文題目	Factors that affect clinical nursing competence and continuing education for Japanese mid-career generalist nurses (中堅ジェネラリスト・ナースの看護実践能力および継続教育に影響する要因の検討)		
審査委員	区分	職名	氏名
	主査	教授	松田 宣子
	副査	教授	中澤 港
	副査	教授	印
	副査		印
要 旨			
<p>本研究は、医療機関における継続教育支援体制の実態を把握し、中堅ジェネラリスト・ナースの看護実践能力と看護実践能力に影響する環境要因、個人要因、専門性要因との関連を明らかにし、継続教育について検討することを目的とする。方法は、A県内看護管理者と経験年数を5～20年程度有する中堅ジェネラリスト・ナースを対象に、看護実践能力に影響すると考えられる要因、およびキャリア中期看護師の臨床実践力測定尺度から成る質問紙調査を実施した。352医療機関に研究協力を依頼し、回答が得られた看護管理者109名(回収率31.0%)と中堅ジェネラリスト・ナースの有効回答632名(回収率47.9%)を分析対象とした。分析は、統計ソフトENRを用いて行った。結果として、中堅ジェネラリストの看護実践能力総得点は、平均73.1±11.1点で、先行研究で67点以上の得点があるものを中堅とされていることから、研究対象者は概ね中堅に該当すると言える。看護実践能力との関連を各項目について検討した結果、看護実践能力と組織要因は、調査1と調査2を合わせ28項目のうち16項目に関連がみられた。個人要因は、経験年数に弱い相関がみられ、13項目のうち10項目に関連がみられた。看護実践能力と専門性要因は、14項目のうち13項目に関連がみられた。以上の結果より、中堅ジェネラリスト・ナースの看護実践能力は、個人要因や組織要因より、専門性要因により影響を受けると推察された。そして、中堅ジェネラリスト・ナースが継続教育に取り組むことで、看護実践能力を高められることが示唆された。</p> <p>以上により中堅ジェネラリスト・ナースの看護実践能力および継続教育に影響する要因が明らかとなり、今後の現任教育に活用できる重要な価値ある知見の集積であると認める。</p> <p>よって、学位申請者笹谷孝子氏は、博士(保健学)の学位を得る資格があると認める。</p>			
掲載論文名・著者名・掲載(予定)誌名・巻(号)、頁、発行(予定)年を記入してください。			
Factors that affect clinical nursing competence and continuing education for Japanese mid-career generalist nurses・Takako Sasatani,Nobuko Matsuda・Bulletin of Health Sciences Kobe, 30,March,2015 (掲載予定)			